

飯山市地方創生総合戦略会議（第3回）顛末

委員 出席者：22人 欠席者：3人

日時 平成27年8月18日（火） 13時30分～
場所 飯山市役所 全員協議会室

1 開会（進行：企画財政課長）

2 市長あいさつ

（市長あいさつの後、内閣府地方創生推進室曾根参事官補佐からあいさつ。地方創生を取り巻く現状、国の人口ビジョン、総合戦略等に係る説明）

3 報告事項

8月12日（水）開催の庁内本部人口減少対策専門部会（第2回）について報告。今回の資料は当該部会での検討を経て提出するもの。

4 協議事項（進行：会長）

(1) 将来人口推計について（資料1）

（事務局）資料1について説明

（事務局）ここ数年の当市の人口動向の特徴として、北陸新幹線工事に従事する方等の転出入の影響を多く受けたと言える。また、転勤を理由として市外へ転出する方も多いように見受けられる。

（委員）1世帯あたりの子どもの数はどの程度か知りたい。

（事務局）適切な資料があるか調べて後日お示ししたい。

（会長）資料1はたたき台。委員各自でご覧いただきたい。そのうえで人口ビジョン策定あたりどのような人口減少対策が有効なのか委員それぞれでご検討いただき、それを踏まえて今後当市の将来人口を決めていきたい。

(2) 飯山市総合戦略素案について（資料2）

（副会長）素案にある施策は幅広く、これを全部できるのかと疑問に思われる委員もいらっしゃるのではないか。まず飯山市としてどこに重点的に取り組むのかについて委員の意見を反映し、柱としていくべき。それが決まってから次の議論に移るべきではないか。

（委員）この素案では国の総合戦略を全体的に小さくしたようなもの。市はいったい何をやりたいのか見えない。飯山市の資産は何なのか議論を深める必要がある。

（委員）飯山の雪を生かして東南アジア諸国をターゲットとして誘客を進めたらどうか。飯山は羽田から3時間以内で来ることができる距離に位置している好条件がある。飯山の雪は魅力である。

（委員）高校生はどんな職業に就きたいのかをもっと議論を突き詰め、それを実現するためにどうしていくのかを検討していくのが良いと思う。

（委員）素案にある施策全て100点をめざすものでなくても良い。あれもこれもではなくどれかひとつでも「世界に誇れる飯山」、「さすが飯山」というものを飯山市が一つになってつくり上げていく方が良い。

（委員）これまでの人口減少数の推移を見れば、飯山市に現在いる人の出生率を上げるだけでは将来の減少に歯止めがかかるとは到底思えない。東京から人をひっぱるためには何が必要かという議論が必要。子育て世帯への経済的支援なども含めて行政や経済界それぞれで考えていく必要がある。

（委員）例えば、飯山市民の1割が英語を話せるように教育に力を入れるといったことも大きな魅力づくりに成り得る。

（委員）子どもの数が増えない理由は教育に係る費用が高いから。飯山に子どもたちが戻ってこないのは仕事がないから。魅力のある教育環境があることが子育て世代にとって魅力あるまちとなる。飯山だったら何をするのか。具体的に何をするかという議論から

スタートしていけばどうか。

- (委員) 今回策定するのは総合戦略であることから、まずは4ページの戦略の柱について委員全体で納得できるものにしておく必要がある。また、総合戦略は網羅的にならざるを得ないのではないか。しかし、具体的な事業のイメージつながる委員の発言については戦略に反映させていく方が良いと思う。また、KPIでその具体的なイメージを表現するといった方法も考えられる。
- (副会長) 市内在住者の出生率を高めるのと外から人を入れていくのとどちらが有効かというのと外から人を呼ぶ方が良いと思っている。市外から人を呼ぶことができるような高校、教育環境づくりを進めていくためにどのような高校が良いのかというのも一考。
- (副会長) 農業も含め飯山ならではの特徴を入れた産業おこし、産業力、競争力を高め、若い人、外の人から見て魅力ある産業づくりをする。観光・新幹線を商店街に生かす取組みも具体化していく必要がある。
- (委員) 婚活支援に携わっており、飯山市の子育て支援施策に対する意見を聞くことがあるが、第3子以降の保育料無料化という施策を見た場合、当事者からはだいぶ遠い話に思えるようだ。第1子からの支援策も必要ということもある。
- (委員) 近隣自治体と総合戦略のすり合わせの必要はないか。
- (会長) 施策についてすり合わせはやっていないが必要なことだと思う。総合戦略は自治体ごとに策定する必要があるが、連携しながらやっていかなければならない施策については、連携できるように各首長と話をしていきたい。近隣市町村の間で人を奪い合っているだけでは仕方ない。
- (委員) この地域一帯は、豊かな自然に囲まれており、それを「売り」にできる。若者への魅力発信できるまちづくりを進めるべき。
- (委員) 高校生にもっと飯山のことを好きになってほしい。また、高校生の提言やアイデア等を行政に取り入れてもらえるようにしてほしい。
- (委員) 行政の努力を市民はどの程度理解しているのか。市民に行政の動きが伝わる努力をしてほしい。
- (委員) 戦略を読むだけより、先に発言があったように何か一つに決めて取り組んでいくという議論になると飯山市の将来イメージがしやすい。都会にはない飯山でしかできない教育環境づくりを進めてはどうか。また、高校から飯山の魅力を知っておくことにより、進学後に帰ってくる人も増えるのではないかと思う。
- (委員) 市内に小中高一貫校設立が夢。子どもに全てを託すという願いの下で思い切り予算をつぎ込むことが子ども本人、地域全体どちらのためにもなると思う。
- (委員) 飯山のことをもっと知り、好きになってもらえたらという発言があったが、既に小中学校でもそうした取組みをしている。しかし、そうした発言を受けてまだまだ取組みが不足しているのかとも思った。また、高校の先生の意識を変えていくことも必要ではないかと思う。
- (委員) 自分の子どもも中学校や高校で飯山について学習する場面はあったが…。
- (委員) 高校生はこれからももっと発言してほしい。「こういう仕事がしたい」という発言もあって良い。そこから飯山でしかできない雇用創出を見出していく。

(3) 質疑・意見交換

(1)・(2)以外特になし。

(4) 今後の予定について

(事務局) 第4回を9月初旬(9/3)、第5回を9月末～10月初旬の間に開催し、当市人口ビジョン・総合戦略を固めていきたい。

(5) その他 特になし。

5 その他 特になし。

6 閉会 15:32